

## 小児がん患者支援で 山形大に100万円寄付

県内の高校生

レモネードを販売して小児がん患者への支援を募る「山形レモネードスタンドプロジェクト」に取り組む県内の高校生が14日、活動を通じて集まった103万4636円を山形大医学部に寄付した。

プロジェクトは、県青年の家（天童市）がコーディネートし、中学生や大学生ら約30人によるボランティア

平田寧々さん（右から2人目）が三井哲夫教授（右端）に目録を手渡した

山形市・山形大医学部



アサークル「nicconえ」の取り組み。メンバーの一人で、小学3年の頃に小児がんを患った平田寧々さん

（18）東海大山形高3年Ⅱが呼びかけ、本年度から繰り広げる。各地の催しに参加してレモネードスタンドを開いたほか、趣旨に賛同した70超の学校や団体、個人がレモネードの販売や広報活動に協力した。

山形市の同学部で贈呈式が行われた。平田さんは「闘病中の子どもたちの笑顔が少しでも増えてほしい」とあいさつし、三井哲夫教授（小児科学講座）に目録を手渡した。三井教授は「活動によって地域の理解が深

まり、誰ひとり取り残さない社会の実現につながればいい」と話した。

レモネードスタンド活動は、小児がんを患った米国の少女の取り組みをきっかけに、世界中に拡大した。「nicconえ」は2024年度も規模を拡大してプロジェクトを継続する計画。同学部は、小児がんに関する研究に加え、付属病院小児科病棟にあるプレイルームの環境整備などへの寄付金活用を検討している。

（吉村瑛人）